

かごしまアニメーション倶楽部だより 2018年2月

鹿児島でのアニメーションは、2006年11月「鹿児島でもアニメーションの学びの場を！！」と子どもの本かごしま（代表：種村エイ子）が中心となり、岩辺先生、笠井先生をお招きして、セミナーを開催したのが始まりです。このセミナーは、毎年好評で、2017年の夏13回目となりました。

2010年秋から鹿児島での自主学習会がスタートし、2014年からは「かごしまアニメーション倶楽部」としての年3回の学習会を積み重ねています。

構成メンバーは、学校司書・公共図書館司書・読書ボランティア・教諭と多彩です。2017年9月には、フランスのドミニクさんと辻由美さんに鹿児島までおいいただき、たくさんの方が本場フランスのアニメーションの感動を味わいました。

ドミニクさんのセミナーを受けてのアニメーション実践は、いろんな場で続けられていますが、今回は、2月5日に開かれた本年第1回目の学習会を報告します。

鹿児島の学習会は、

- ① 参加者の自己紹介とあわせて、おすすめの本の1分間紹介
- ② クイックアニメーション(ショートアニメーション)
- ③ じっくりアニメーション
- ④ 交流会 すすめています。

②のクイックは、鹿児島市内の小学校司書の増山佳子さん

ドミニクさんのセミナーを受けて、昨年秋に図書委員の子どもたちと実践した「Le Petit Chasseur de bruits(小さな音の狩人)」の報告をしてもらいました。この本は『ちいさなポムさん』のタイトルで翻訳されているのですが、増山さんは、あえて翻訳本を使わずに、子どもたちにフランス語の本でざっくりあらすじを伝えて、タイトルも、子どもたちが「音探しの旅」と名づけたのだそうです。

使った楽器も写真のように100円ショップや手作りで準備し、本には出てこない小鳥の鳴き声なども加え、セリフもみんな考えて、全校の児童の前で披露したそうです。



「小さな音の狩人」は、12月に山川図書館の近くの子ども会でも、山川図書館と山川小学校の司書が協力して実演したとの報告もありました。こちらは、雨の音を出す楽器を子どもたちと手作りしたそうです。

かごしまアニメシアニマシオン倶楽部では、この夏鹿児島で開催される学図研全国大会（8月2日から）でも披露する予定です。

なお『小さな音の狩人』は、ドミニクさんの本『フランスの公共図書館 60 のアニメシオン』の第5章 音の世界、音楽とダンスに載っています。

③のじっくりアニメシオンは、山川図書館の久川文乃さん

これまたドミニクさんの東京でのセミナーで出会った「オールズバーグでアニメシオン」。『ハリス・バーティックの謎』をもとに選んだ絵を8枚紹介し、それぞれの絵にぴったりの文章を選び出し、さらに各グループで選んだ絵の前後のおはなしをグループで相談してつくるというもの。

最後に、グループでつくったお話を発表し、オールズバーグの本をブックトークで紹介してもらいました。

以前佐藤涼子さんが『いまましい石』をアニメシオンで紹介されたこともあり、おなじみオールズバーグですが、ドミニクさんのこのアニメシオンをやると、改めて魅力を発見します。

ただいま、夏の学図研全国大会に向けて、かごしまアニメシオン倶楽部で本を出版する予定で、編集作業に追われています。完成の折はよろしくお願いします。

(種村エイ子)